

仙台稲作情報2020（第3号）

宮城県仙台農業改良普及センター TEL：022-275-8410 FAX：022-275-0296

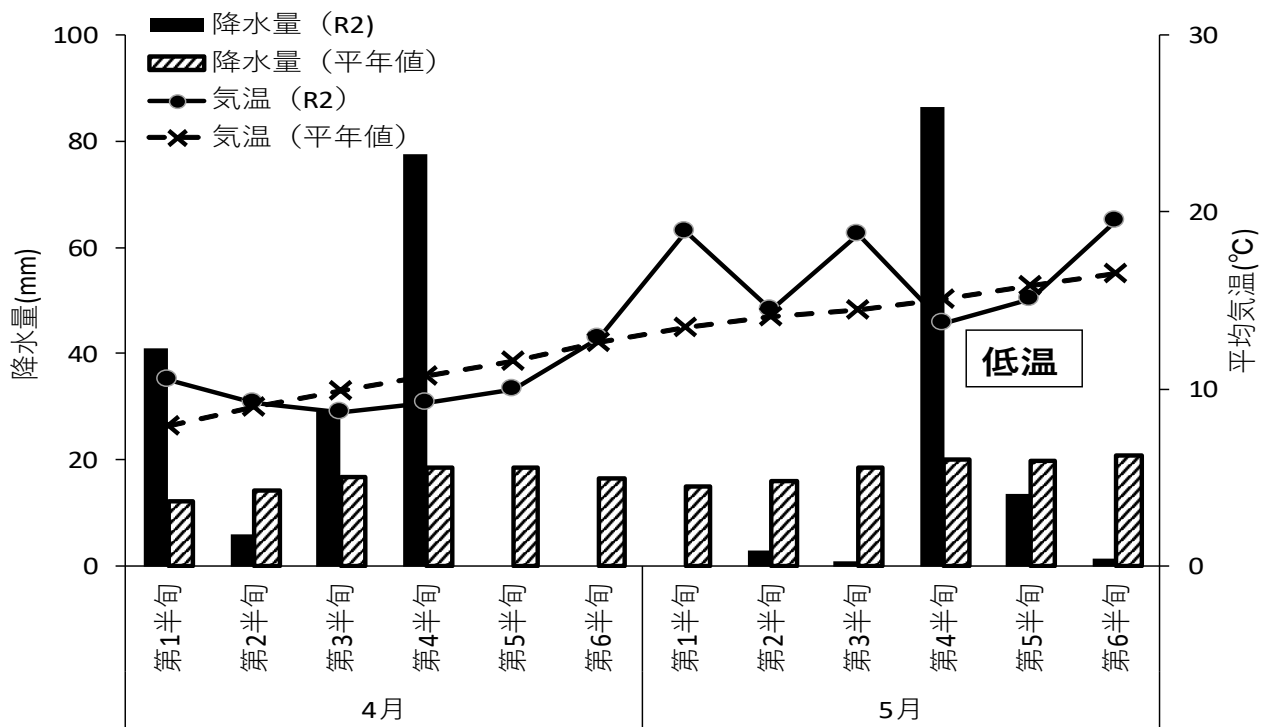
<http://www.pref.miyagi.jp/sd-nokai>

E-mail：sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

栽培管理のポイント

- ▷適正な水管理で、分けつの発生を促進させましょう。
- ▷令和元年東日本台風（台風19号）によるわら堆積ほ場においては、強い土壌還元によるガスの発生に注意しましょう。
- ▷雑草の発生状況を確認し、防除が遅れないようにしましょう。
- ▷いもち病の発生源となる補植用残苗は速やかに処分しましょう。

1 気象経過



2 管内の播種・田植の状況

- ・播種は、天候に恵まれ、「盛期」は平年と同じ4月12日となりました。4月中旬にやや低温となりましたが、立枯病等の発生は少なく順調でした。
- ・田植は、天候に恵まれ概ね順調に進み、前年より1日早い5月10日に「盛期」となりました。5月11,13,14日は風が強く、植え傷みが発生したほ場があり、また、5月19日～22日には平均気温が平年を下回り、田植直後のほ場では活着の遅れが見られました。

管内の田植状況（地帯区分別）

地帯区分	始期	盛期	終期
山間高冷 (平年差)	5/7 (2日早い)	5/16 (平年と同じ)	5/26 (平年と同じ)
西部丘陵 (平年差)	5/4 (1日遅い)	5/12 (2日早い)	5/23 (1日早い)
北部平坦 (平年差)	5/2 (平年と同じ)	5/7 (1日遅い)	5/23 (2日遅い)
南部平坦 (平年差)	5/2 (2日早い)	5/12 (2日早い)	5/24 (平年と同じ)
仙台湾沿岸 (平年差)	5/3 (1日早い)	5/12 (2日早い)	5/24 (平年と同じ)
管内 (平年差)	5/3 (平年と同じ)	5/10 (平年と同じ)	5/24 (2日遅い)

※「始期」は作付見込み面積の5%、「盛期」は50%、「終期」は95%が進行した時期

※「平年差」は、前5カ年の平均値との差

3 管内の生育状況

- ・「ひとめぼれ」や「ササニシキ」では、草丈が前年の8割程度、茎数は前年の8～9割となっています。葉数も前年と比べて1.1枚～0.7枚少なくなっています。
- ・「だて正夢」は、茎数が前年に比べて多くなっていますが、栽植密度が前年より多いことが考えられ、生育は「ひとめぼれ」や「ササニシキ」と同様の傾向が見られます。
- ・5月中旬の強風や低温により、植え傷みや初期生育の抑制が見られ、生育は前年より若干の遅れが見られます。

6月1日の調査結果

品種	ほ場 (地帯区分)	田植 月日	草丈 (cm)			茎数 (本/m)			葉数 (枚)		
			本年	前年 比%	平年 比%	本年	前年 比%	平年 比%	本年	前年 差	平年 差
ひとめぼれ	仙台市宮城野区岡田 (仙台湾沿岸)	5/14	17.9	68	70	70.0	115	103	4.5	-1.1	-0.8
	大郷町鶴崎 (北部平坦)	5/21	18.7	87	82	78.7	63	81	3.6	-1.8	-2.1
	仙台市泉区福岡 (西部丘陵)	5/15	20.5	81	-	86.8	66	-	6.2	-0.4	-
	管内平均		19.0	79	-	78.5	81	-	4.8	-1.1	-
ササニシキ	仙台市若林区長喜城 (仙台湾沿岸)	5/4	18.7	67	68	78.7	113	117	5.4	-1.0	-0.4
	大和町鶴巣 (北部平坦)	5/9	22.8	104	-	87.4	70	-	5.2	-0.3	-
	管内平均		20.8	86	-	83.1	92	-	5.3	-0.7	-
だて正夢	仙台市若林区三本塚 (仙台湾沿岸)	5/25	19.8	66	-	82.1	139	-	3.9	-	-
	大郷町土橋 (北部平坦)	5/16	19.7	82	88	86.6	111	109	4.4	-1.3	-1.0
	管内平均		19.8	74	-	84.3	125	-	5.3	-0.8	-

※平年比は、平成29年から令和元年の3カ年平均

※大郷町鶴崎の田植日は、前年より8日遅れ

4 本田管理

移植栽培

(1) 水管理

- ・水深2～3cmの浅水として水温・地温の上昇を図り、分げつの発生を促進させましょう。
- ・特に「だて正夢」は、莖数が確保しにくい品種です。適正な水管理で分げつを促進させましょう。
- ・低温（平均気温が概ね14℃以下）の時は、水深5～6cmの深水としましょう。
- ・生わらなど有機物を施用したほ場では、時々落水して土中への酸素供給とガス抜きを行い、根腐れを防止しましょう。
- ・令和元年東日本台風（台風19号）により、わらが一角に堆積したほ場においては、強い土壌還元によってガスが発生する可能性がありますので、注意が必要です。
- ・中干しは、根の活力の向上、無効分げつの発生抑制、作土層の硬化促進などの効果があります。有効莖数を確保したら、早めに実施しましょう。

有効莖確保期の目安（県作成栽培暦より）

品 種	時 期	m ² 当たり莖数
ひとめぼれ	6月20日頃	310～350本/m ²
ササニシキ	6月25日頃	460～500本/m ²
まなむすめ	6月20日頃	460～500本/m ²

自分のほ場のm²当たりの莖数を確認するには・・・

株当たり 平均莖数	m ² 当たり莖数（本）		
	坪70株植え (21.2株/m ²)	坪60株植え (18.2株/m ²)	坪50株植え (15.2株/m ²)
20本	424本	364本	304本
24本	509本	437本	365本
28本	594本	510本	426本

坪70株植えの場合、株当たりの平均莖数が20本だとするとm²あたりの莖数は424本となります。

(2) 病虫害防除

①いもち病

- ・補植用残苗は、本田でのいもち病の発生源になりますので、補植後は裏返す等、直ちに処分しましょう。
- ・飼料用米や直播栽培など、箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、水面施用剤を散布しましょう。

②イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ

移植前～移植時に殺虫剤を使用しなかった場合は、移植後に以下の要防除密度を目安に防除を行いましょう。

【要防除密度】

イネミズゾウムシ 畦畔際2m程度の成虫密度が100株当たり130頭

イネドロオイムシ 成虫密度が100株当たり25頭または産卵最盛期（6月上旬予想）の卵塊密度80個/100株

(3) 雑草防除

- ・ほ場の残草状況を確認し、必要に応じて中・後期剤の使用を検討しましょう。
- ・斑点米カメムシ類の発生を抑制するため、6月中旬までに休耕田や土手・畦畔等の除草に努めましょう。また、水田内のヒエやホタルイ類の雑草も、稲の出穂前にカメムシ類を水田に呼び寄せます。残草しないよう水田内の雑草種と葉齢を確認し、適切な剤を適期に散布しましょう。

湛水直播栽培

(1) 水管理

- ・本葉4葉期に7日間程度、落水状態（亀裂入る直前）にすることで、倒伏が軽減し慣行と同等の収量が得られます。
- ・湛水直播栽培では、播種深度が浅く、転び型倒伏が発生しやすいので、徹底した中干しが必要です。目標穂数の80%が確保された頃を目安に中干しを実施し、土壌を硬化させ株元の支持力を強化させましょう。

(2) 病虫害防除

- ・イネツトムシ（イチモンジセセリ）の幼虫による生育遅延、出穂障害（穂の出すくみ）が生じる場合があります。幼虫は6月下旬頃から発生します。防除適期は若齢幼虫期と非常に短い期間に限られます。より高い防除効果を得るためには薬剤散布のタイミングが重要であり、若齢幼虫が葉をつづり合わせて形成する苞（つと）を見逃さないようにしましょう。



幼虫

5 東北地方の向こう1か月の天候の見通し（5/28仙台管区气象台発表）

予報のポイント

- 暖かい空気に覆われるため、向こう1か月の気温は高い見込みです。特に、期間のはじめは気温がかなり高くなるでしょう。
- 降水量、日照時間はほぼ平年並の見込みです。

■農薬危害防止運動実施中（令和2年6月1日から令和2年8月31日まで）

- ・ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認しましょう。
- ・散布後には農薬の使用履歴を記帳しましょう。
- ・最新の農薬登録情報は、農林水産省消費安全技術センターのホームページで確認することができます。

■令和2年春の農作業安全確認運動実施中（令和2年4月1日から令和2年6月30日まで）

運動スローガン 「見直そう！農業機械作業の安全対策」

近年、様々な農業機械の普及、農業従事者の高齢化等により、機械操作のミス、過信と慣れによる安易な作業が重大事故に結びつき、依然として農作業死亡事故が発生しています。

農作業死亡事故を減少させるため、安全対策を強化して一層の事故防止に取り組みましょう。

次回の稲作情報第4号は、6月19日に実施する生育調査の結果をもとに6月22日頃の発行となります。

6月10日の生育調査結果は、仙台農業改良普及センターホームページに掲載しますので、ご覧ください。